

平成17(2005)年度 社会福祉法人あかつき福祉会
事業報告書

社会福祉法人あかつき福祉会

(1) 総括事項

措置から利用契約へと、社会福祉基礎構造改革が進む中で平成15年度に導入された支援費制度は、増え続けるサービス利用のための財源を確保することが困難となり、わずか2年余りで破綻し、その後十分な議論もなく、新たな制度として、平成17年10月31日に「障害者自立支援法」が成立した。新制度の詳細がようやく明らかになってきたのは遅れに遅れて今年度末になってからであった。そのため、制度の内容を掴むために情報収集に奔走し、4月からの一部施行に向け、その準備に追われる日々が続いた。新しい福祉サービス体系には、現行サービスが位置付かない事業もあるため、事業の見直し再編を余儀なくされることも予想され、今後の法人経営を大きく左右する事態になることを予感させる年となった。

特筆事項は以下のとおりである。

箕面市立あかつき園及び箕面市立ワークセンターささゆり指定管理者制度による管理運営の開始

昨年度の箕面市立障害者福祉センターささゆり園に引き続き、箕面市から指定管理者の指定を受け、箕面市立あかつき園及び箕面市立ワークセンターささゆり両施設の管理運営を開始した。

5年後には、新たな指定管理者の選考が一般公募で行われることを見据え、着実に成果を積み重ねていくことを意識しながら、授産施設支援の提供においては、本人支援プログラムに基づき計画的なサービスの提供と進捗管理を行うとともに、プログラムの充実を図りサービスの向上に努めた。また、施設・設備等の維持管理においても箕面市との緊密な連携のもと計画的な保守点検を実施し、常態の維持及び故障等の予防に努めた。

地域生活総合支援センターの開設

生活支援関連の既存6事業を一元的、効率的に機能させるため、また、法人本部及び施設サービス部門との連携を強化し、利用者中心の総合的な生活支援サービスの提供に努めることを目的として、あかつき園内に地域生活総合支援センターを開設した。今までは縦割りで1事業1担当としていたが、事業を一元的に管理することにより人材を有効に活用し、柔軟かつ迅速に他事業をバックアップする体制がとれるようになったことは、大きなメリットであった。しかし、箕面市の障害福祉施策の中核であるライフプラザから離れたことによるデメリットもあり、今後の事業展開も見据え、支援センターの拠点をどこに構えるかについては慎重な検討の余地を残すこととなった。

障害者自立支援法施行への対応

障害者自立支援法が平成18年4月1日から施行されることとなった。支援費制度の導入とは桁外れの大きな制度改正となり、サービスを利用する側にとっては定率1割負担の発生、事業者にとっても報酬の減額という痛みを伴うことが、大きな不安としてのしかかってきた。当福祉会は、出来るだけ最新の情報を迅速に入手することを心がけ、それらを整理し、職員向けの勉強会、理事・評議員の勉強会、市内事業所との情報交換会、利用者・家族への説明会等を開催する等の対応に努めた。4月1日からは一部施行だが、10月1日の全面施行後は、事業体系そのものが大きく変わることとなり、次年度上半期の早い時期には、現行事業の見直しや再編(案)の作成が必要となる。

職場改善委員会の開催

地方自治法の改正により、箕面市においても指定管理者制度が実施され、障害者自立支援法の施行に伴い、従来の法人運営から法人の生き残りをかけた法人経営を進めるべく、経営改革を進捗させていかなければならないことは必至である。しかしながら、「福祉サービスにおける商品は人材である」と言われる中で、職員の定着率が悪く、特に勤続5年以上の職員の退職は、職場を纏めていける経験のある職員の不足をもたらし、法人の体力に関わる深刻な事態をもたらしていることは否めない。現状を打開し改善策を検討するために、労使で職場改善委員会を立ち上げ、7回にわたり議論を重ねた。その結果、次年度は職場安全衛生委員会を設置し、改善策を実施するための行動計画を企画・立案し実施していくこととした。

平成15年4月に施行された支援費制度の中で、障害者市民がようやく本人中心の暮らしを模索しだした矢先に、制度は「障害者自立支援法」へと大きく転換された。「このまちで自分らしく暮らしたい」という当事者の当たり前の願いを、制度改正の嵐に翻弄されることなく進めていくことが出来るのだろうか・・・不安はよぎる。しかし、取り巻く環境の中で現実を受け止め、我々には何がどこまで出来るのかを模索し、創意工夫をしながら前に進んでいかなければならない。

(2) 事業別報告

理事会・評議員会開催状況 理事会開催状況(全4回開催)

第1回理事会

- * 開催日時：平成17年 5月27日(金) 午前10時～同11時20分
 - * 開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室
 - * 案件：第1号議案 社会福祉法人あかつき福祉会評議員選任について同意を求める件
 - 第2号議案 平成17(2005)年度社会福祉法人あかつき福祉会補正予算(第1号)の件
 - 第3号議案 平成16(2004)年度社会福祉法人あかつき福祉会決算について認定を求める件
 - 第4号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員就業規則の一部改正の件
 - 第5号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員給与規則の一部改正の件
 - 第6号議案 社会福祉法人あかつき福祉会支援職員就業規則の一部改正の件
 - 第7号議案 社会福祉法人あかつき福祉会臨時職員就業規則の一部改正の件
 - 第8号議案 自治労大阪公共サービスユニオンとの労働協約の締結の件(当日追加)
- (以上、全案件につき同日可決、承認)

第2回理事会

- * 開催日時：平成17年 7月28日(木) 午前10時～同10時30分
 - * 開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室
 - * 案件：報告第1号 社会福祉法人あかつき福祉会職員退職の件
 - 第9号議案 社会福祉法人あかつき福祉会施設長任命の件
- (以上、全案件につき同日可決、承認)

第3回理事会

- * 開催日時：平成17年10月27日(木) 午前10時～同10時40分
 - * 開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室
 - * 案件：第10号議案 社会福祉法人あかつき福祉会役員選任について同意を求める件
 - 第11号議案 社会福祉法人あかつき福祉会事務専決規則の一部改正の件
 - 第12号議案 社会福祉法人あかつき福祉会公印規則の一部改正の件
 - 報告第2号 社会福祉法人あかつき福祉会職員退職の件
- (以上、全案件につき同日可決、承認)

第 4 回理事会

* 開催日時：平成 18 年 3 月 15 日（水） 午前 10 時～同 12 時 05 分

* 開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2 階会議室

* 案 件：第 13 号議案 平成 17(2005)年度社会福祉法人あかつき福祉会補正予算（第 2 号）の件

第 14 号議案 平成 18(2006)年度社会福祉法人あかつき福祉会事業計画及び予算の件

第 15 号議案 障害者自立支援法の施行に伴う利用者負担金の変更の件

第 16 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会役員選任について同意を求める件

第 17 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員就業規則一部改正の件

第 18 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員給与規則一部改正の件

第 19 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会支援職員就業規則一部改正の件

第 20 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会臨時職員就業規則一部改正の件

報告第 3 号 社会福祉法人あかつき福祉会職員退職の件

報告第 4 号 箕面市指定ごみ袋印刷原反等納入指名競争入札実施結果の件

以下当日追加

第 21 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会理事長選任の件

第 22 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会副理事長選任について同意を求める件

第 23 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会常務理事選任について同意を求める件

第 24 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会理事長の職務代理者の件

（以上、全案件につき同日可決、承認）

評議員会開催状況（全 4 回開催）

第 1 回評議員会

* 開催日時：平成 17 年 5 月 25 日（火） 午前 10 時～同 11 時 15 分

* 開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2 階会議室

* 案 件：第 1 号議案 平成 17(2005)年度社会福祉法人あかつき福祉会補正予算（第 1 号）につて同意を求める件

第 2 号議案 平成 16(2004)年度社会福祉法人あかつき福祉会決算認定について同意を求める件

第 3 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員就業規則の一部改正について同意を求める件

第 4 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員給与規則の一部改正について同意を求める件

第 5 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会支援職員就業規則の一部改正について同意を求める件

第 6 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会臨時職員就業規則の一部改正

について同意を求める件
第7号議案 自治労大阪公共サービスユニオンとの労働協約の締結の件
(当日追加)
(以上、全案件につき同日可決、承認)

第2回評議員会

* 開催日時：平成17年 7月27日(水) 午前10時～同11時05分
* 開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室
* 案件：報告第1号 社会福祉法人あかつき福祉会職員退職の件
第8号議案 社会福祉法人あかつき福祉会施設長任命について同意
を求める件
(以上、全案件につき同日可決、承認)

第3回評議員会

* 開催日時：平成17年10月25日(火) 午前10時～同11時00分
* 開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室
* 案件：第9号議案 社会福祉法人あかつき福祉会役員選任について承認
を求める件
第10号議案 社会福祉法人あかつき福祉会事務専決規則の一部改
正について同意を求める件
第11号議案 社会福祉法人あかつき福祉会公印規則の一部改正に
ついて同意を求める件
報告第2号 社会福祉法人あかつき福祉会職員退職の件
(以上、全案件につき同日可決、承認)

第4回評議員会

* 開催日時：平成18年3月14日(火) 午前10時～同12時10分
* 開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室
* 案件：第12号議案 平成17(2005)年度社会福祉法人あかつき福祉会補
正予算(第2号)について同意を求める件
第13号議案 平成18(2006)年度社会福祉法人あかつき福祉会事
業計画及び予算について同意を求める件
第14号議案 障害者自立支援法の施行に伴う利用者負担金の変更等
につて同意を求める件
第15号議案 社会福祉法人あかつき福祉会役員選任について承認を
求める件
第16号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員就業規則一部改正に
ついて同意を求める件
第17号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員給与規則一部改正に
ついて同意を求める件
第18号議案 社会福祉法人あかつき福祉会支援職員就業規則一部改

- 正について同意を求める件
第 19 号議案 社会福祉法人あかつき福祉会臨時職員就業規則一部改正について同意を求める件
報告第 3 号 社会福祉法人あかつき福祉会職員退職の件
報告第 4 号 箕面市指定ごみ袋印刷原反等納入指名競争入札実施結果の件
(以上、全案件につき同日可決、承認)

その他

理事会・評議員会合同研修会

- * 開催日時：平成 18 年 3 月 9 日（木） 午前 10 時～同 12 時 00 分
- * 開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 3 階ささゆりホール
- * 講師：あかつき福祉会 あかつき園園長補佐 亀谷雅彦
同 ささゆり園園長 古川伸吾
- * 研修内容：(1) 障害者自立支援法について
(2) 当福祉会各事業について
(3) その他
- * 参加者数：20 名

箕面市立あかつき園運営事業

概要

本年度も、本人支援プログラムに基づき授産活動と日中活動のバランスを図りながら、より個々のニーズに即した支援に努めた。また、平成18年4月からの障害者自立支援法の施行を踏まえ、積極的に情報収集し適時利用者及びそのご家族への情報提供に努め本法についての理解を図った。

特筆すべき事項

ア 支援スキルの向上をめざして

今年度の新たな取り組みとしては、利用者の作業場面や生活場面の中で、より具体的な支援策を構築するため、「課題分析」の手法を用いてよりわかりやすい作業方法の獲得や、スムーズな生活行為に繋げていく取り組みを始めた。これらのなかで、利用者への理解の深まりが図れ支援の質的向上に繋がった。

イ 個別支援プログラムに基づく進路支援

今年度も、あかつき園から新たな進路先に6名の利用者を送り出した。利用者が新しい活動先でも主体的に活動できるよう進路先との連携のもと、情報提供を行うと共に、個々に応じた移行支援プログラムを作成しスムーズな移行を図った。

主な活動内容

ア 授産活動

A 主な授産活動内容及び収入

a	箕面市指定ゴミ袋の生産・配送	59,998,937円
b	農園芸（野菜栽培・販売）	877,005円
c	手漉きはがき製造販売	179,241円
d	ケーキ製造・販売	258,347円
e	描画（カレンダー販売を含む）	598,100円
f	公園清掃	118,900円

B 利用者1人あたりの月額平均工賃額（ボーナス分を含む） = 16,979円

C 箕面市障害者事業団職場実習参加状況

実習参加者数	25人	
実習参加延べ日数	144日	
実習先及び参加人数	公園花壇	11名
	喫茶（メイプル）	2名
	喫茶（ライブラ）	8名
	グリーンるうぶ（花販売）	1名
	観葉植物リース	2名
	ビルメンテナンス	1名

イ その他の活動

- A 所外活動（買い物、図書館活動、社会見学など）
- B 音楽活動（音楽療法、音楽レクリエーション、ハンドベルなど）
- C 健康維持活動（ウォーキング、ダンス、プール、リラクゼーションなど）
- D 創作活動

ウ 進路支援

移行先	移行者数
障害者福祉作業所（すきっぷ）	2名
障害者福祉作業所（ジョイント）	4名

今後について

新たな法制度のもと、あかつき園は平成24年3月末までに、新たな事業へ移行する必要がある。現利用者さんのニーズや障害特性等を踏まえ、これまでの知的障害者への支援実績を生かすと共に、将来の箕面市における障害福祉サービス全体像を展望し、適切な事業転換について積極的に提言していきたい。

在籍者状況

平成18年3月31日現在

項目	平均年齢		平均在籍年数		平均利用率	
女性（25人）注	25.8才		7.9年		94.2%	
男性（25人）	23.2才		8.8年		96.1%	
全体（50人）	24.5才		8.4年		95.2%	
身障手帳	1級	2級	3級	4級	5級	6級
	2人	1人	2人	0人	0人	1人
療育手帳	A	B1	B2	注 = 年度途中にて1名死去、 1名退所された方を含めて算出した。		
	45人	5人	0人			
障害程度区分	区分A	区分B	区分C			
	42人	8人	0人			

わんすてっぷ（知的障害者デイサービス）運営事業

概要報告

今年度は延べ利用者数が2,389名で昨年度に比べマイナス3.2%であったが、年度途中で障害者雇用支援センターへ移行された方（1名）があり減少したものである。しかし、利用者個々の利用率は向上し（利用者平均＝16年度86.7%、17年度89.5%）、支援費収入においても見込額を8.7%上回る結果を得、事業開始から2年目も安定した経営が行えた。

特筆すべき事項

ア 利用者の精神面への支援強化

新たな取り組みとしては、保健所による「こころの健康相談」の活用や、主治医との連携強化の一環で、適切な処方に繋げていくため日々の利用者の精神状況を記録化し、通院同行時に情報提供を行った。

また、職員間では適時情報の共有化と支援方法の統一化などを図り、利用者の精神・心理状態に配慮した支援の質的向上を目指した。

イ 健康の増進

室内トレーニング（エアロバイク）やウォーキング・サイクリング・公園活動等の所外での活動を多く提供することにより心身の健康保持に努めた。また、毎月1日を「お風呂デー」として利用者が全員入浴する日をつくり、心身のリフレッシュを図った。

ウ 満足度（やりがい）の向上を目指して

音楽活動ではカラオケ大会・コンサートでの発表会、年間を通じて練習した「よさこいソーランダンス」の成果を光明の郷ケアセンター・稲老人デイサービスセンター等で発表を行った。創作活動では作品展示（国立病院機構大阪医療センター等）などを行った。

これらの利用者一人ひとりにスポットライトが当たる経験や、日頃の活動の成果を所外の人々の前で自己表現できたことは、利用者にとって大きな自信・達成感など「やりがい」に繋がるものであった。

また、クッキングと社会見学を月に1度の定例プログラムとすることで月々の楽しみが増え、満足度の高い日々を過ごされた。

今後について

障害者自立支援法の施行により、定率負担制度の導入・食事の実費負担など利用者・ご家族にとって新たな負担を来すこととなったが、更に本年9月末を以て、「障害者デイサービス事業」が廃止されることに伴い、10月以降は新たな事業形態での運営を余儀なくされる。

今後の展望を図る上においては、現利用者のニーズや障害状況を踏まえるとともに、環境の変化への対応が困難な方々への配慮を十分行い、誰一人として「行き場のない」方がないように、これまで培った利用者との信頼関係を基に一人ひとりの自己実現への支援を深化・継続できる新たな事業への転換を図っていきたい。

わんすてっぷ(サービス提供実績)

単位=人

17年度	月	開所日数	延べ利用者数	サービス提供実績					1日あたりの利用者数
				6時間以上	4～6時間	4時間未満	給食サービス	送迎サービス(片道1回)	
	4月	20	215	204	11	0	203	258	10.8
	5月	19	185	177	8	0	185	248	9.7
	6月	22	221	214	9	0	223	292	10.0
	7月	20	196	188	7	1	186	259	9.8
	8月	23	220	213	7	0	219	294	9.6
	9月	20	204	199	6	0	190	272	10.2
	10月	20	201	197	5	0	194	251	10.1
	11月	20	190	184	5	1	190	248	9.5
	12月	18	169	166	3	0	158	231	9.4
	1月	19	171	170	1	0	172	216	9.0
	2月	20	200	196	3	1	191	249	10.0
	3月	22	217	212	5	0	196	291	9.9
	合計	243	2,389	2,320	70	3	2,307	3,109	117.9
	平均	20.3	199.1	193.3	5.8	0.3	192.3	259.1	9.8
16年度	合計	243	2,467	2,358	92	17	2,423	2,656	122.3
	平均	20.3	205.6	196.5	7.7	1.4	201.9	221.3	10.2

主な活動内容

(1) 文化創作活動

- * 音楽活動 = カラオケ、コンサート鑑賞
- * 創作活動 = さをり織り、編み物、手芸、描画、パズル、季節の工作(七夕飾り等)、クッキング

(2) 健康支援活動

- * エアロバイク、階段昇降など
- * 機能維持訓練 = 個別メニュー
- * 作業療法士訪問指導・相談(2ヶ月1回)
- * 精神保健福祉士訪問指導・相談(月1回)(7月終了)
- * 嘱託医訪問指導・相談(月1回のあかつき相談日に適時実施)
- * 講師指導によるダンス(月2回のあかつき園実施時に適時参加)

(3) 所外活動

- * ウォーキング、ドライブ、プール活動など
- * 園芸(タマネギ、ジャガイモ、さつまいも、すいか、イチゴなど)
- * スポーツセンターでの活動
- * 身障デイサービスとの交流会
- * 社会見学(るり溪、ポップサーカス、明治製菓工場見学など)

その他特記事項

- (1) 個別支援計画策定
- (2) 保健所「こころの健康相談」の活用
- (3) 社会資源(主にヘルパー)の活用に係るコーディネート
- (4) 利用者1名4/7利用開始、4/28終了(雇用支援センターへ移行)

箕面市立ワークセンターささゆり運営事業

概要

本年度も、本人支援プログラムに基づき「利用者主体」を支援の基本としながら、計画的・効率的な支援に努めた。実践の過程においては可能な限り利用者の評価・意見を取り入れ計画の見直しを行った。

特筆すべき事項

ア 施設機能の周知

今年度、年度途中において退所された方がおられたが、その背景には事前に本施設の機能や基本事項についての周知が、十分でなかったことがあるのではとの反省を踏まえ、今後の進路調整においては関係機関との十分な情報交換を行うことが課題として残った。

イ 安全・安心への対応

生活場面の中で、多くの介護を要する方への支援においては、安全な介護サービスの提供を常に心がけてきたが、今年度介護中に支援者の不注意により怪我をさせてしまう事故が発生した。今一度、日々の介護業務を見直し利用者から「安心」して利用していただけるよう体制の再構築を図った。

ウ 利用定員の取り扱いの見直し

新法の施行に伴い、利用定員の取り扱いが見直され、30名の定員を超えた31名の利用者の受け入れを前提とした体制で新年度を迎えることとなり、適切にサービスが提供できるよう従事体制等の見直しを図った。

主な活動内容

ア 授産活動

A 主な授産活動内容及び収入

a 箕面市指定ゴミ袋の生産	19,467,286円
b さをり製品等製造販売（近隣店舗での出店を含む）	202,770円
c アルミ缶リサイクル	44,887円
d ちらし配送	1,470円

B 利用者1人あたりの月額平均工賃額（ボーナス分を含む）

= 10,614円

イ その他の活動

- A 所外活動（買い物、社会見学など）
- B 音楽活動（音楽療法、音楽レクリエーション、ハンドベルなど）
- C 健康維持活動（ウォーキング、ダンス、プール、リラクゼーションなど）
- D 機能訓練（月2回の作業療法士による訓練指導）
- E 創作活動

今後について

新たな法制度のもと、当施設もあかつき園と同様に平成24年3月末までに、新たな事業へ移行する必要がある。現利用者のニーズや障害特性等を踏まえ、これまでの重度重複障害者への支援実績を生かすと共に、将来の箕面市における障害福祉サービス全体像を展望し、適切な事業転換について積極的に提言していきたい。

また、定員を上回る利用者の受け入れについての適正な判断基準の作成なども不可欠と思われるので検討して行きたい。

在籍者状況

平成18年3月31日現在

項目	平均年齢		平均在籍年数		平均利用率	
女性(14人)	28.5才		4.4年		86.2%	
男性(15人)	28.9才		7.4年		90.6%	
全体(29人)	28.7才		6.0年		88.7%	
身障手帳	1級	2級	3級	4級	5級	6級
	18人	9人	3人	0人	0人	0人
療育手帳	A	B1	B2	注 = 年度途中にて1名退所された方を含めて算出した。		
	24人	3人	1人			
障害程度区分	区分A	区分B	区分C			
	29人	1人	0人			

ささゆりホール利用状況

ア コンサート

利用日時：平成17年4月17日(日)午後1時30分から3時
(リハーサル：平成17年4月16日(土))

利用場所：ささゆりホール

利用者：あかつき園保護者会、ワークセンターささゆり保護者会

利用内容：ダンスパフォーマンス

アカペラグループによる日本の80年代ポップス

ゴスペル

社会人バンドによるポップスコンサート

利用人数：80名

イ 年末お楽しみ会

利用日時：平成17年12月17日(土)午前9時から午後1時

利用場所：ささゆりホール

利用者：箕面市教育研究会、中学校障害教育部会

利用内容：各学校の出し物

ビンゴゲーム

利用人数：90名

箕面市立障害者福祉センターささゆり園運営事業

概要報告

今年度は指定管理者として2年目を迎え、障害者福祉センターとしての機能を充実すべく、初年度実施できなかった事業も含め全9事業を実施した。当然の事ながら、利用者の視点に立ち、主体である障害者市民及び関係団体、また地域住民にとって、より活用しやすい活動拠点を目指し、また、柔軟で使いやすく、快適に利用していただけるよう、施設の管理・運営に努めた。

身体障害者デイサービス運営事業

今年度の利用契約者は、ワークセンターささゆりからの移行者3名、養護学校新規卒業者1名を加え計15名となった。さらに、年度途中にはワークセンターささゆりからさらに1名が移行され、1日の利用定員15名をほぼ満たす状況となった。一方、入浴中心のデイサービスについても、年度当初は13名でのスタートであったが、在宅者を含め3名が年度途中に契約をされ、こちらも1日の定員4名を完全に満たすことになった。各事業の利用人数をみると、日中デイサービスは、延べ2,949名で対前年度比129.7%、入浴中心デイサービスは延べ783名で対前年度比206.1%と、いずれも昨年度を大幅に上回る数字となった。

児童デイサービス推進事業（放課後教室）

平成16年度末に2名の卒業生を送り出したが、新規利用者2名の受け入れを行い、今年度も定員8名で事業を実施した。活動日は毎週火・木曜日の午後2時～5時で、合計91回実施し、延べ利用者数は648人で、対前年度比106.4%の受入を行った。年間計画に基づき、創作活動やクッキング、スポーツ等のプログラムを提供したが、活動に参加することもさることながら、学校とは異なる環境や生徒、支援者と関わることは、社会生活を送るうえで大変有意義な経験になっている。学童保育の対象から外れる中高生にとっては、期待の大きい事業であり、年度途中に利用申込みの問い合わせもあったが、支援体制上の問題もあり、断らざるを得なかったことは大変残念なことであった。本事業だけで全てのニーズに応えることは困難であり、今後は学校の問題としても検討が必要であり、裾野が広がることを期待したい。

障害者社会参加促進事業

茶道教室は毎月第1・3月曜日の午後6時～8時に実施しており、今年度は年間21回実施し、延べ利用人数は38人で、対前年度比237.5%の利用実績であった。また華道教室は毎月第2・4月曜日の午後6時～8時に実施しており、今年度は年間20回実施し、延べ利用人数は84人で、対前年度比106.3%の利用実績であった。両教室とも成人された障害者市民の趣味を広げる場として、また、生活の質を高めるうえでも貴重な事業であり、利用率が伸びたことは望ましいことであった。

ボランティア育成事業

ア 手話講習会

聴覚障害者市民への理解を深め、手話の普及と聴覚障害者の外出支援を行うボランティアの育成を目的に、今年度は初めて手話を学ばれる方を対象とした初級手話講習会を開催した。また、初めての試みとして、昼間働いている方でも参加していただける機会を提供するため、午後7時～9時の設定で、受講生20名に

対し20回の連続講座を実施し、出席率は85.0%を修めることが出来た。初級手話講習会で学んでいただけることはあくまで手話の基本であり、本講習会をきっかけに、個々にスキルアップを図っていただくことが必要となるため、講習会終了後は市内で活動している手話サークルを紹介し、入会を働きかけた。今後も、講習会の開催に協力をいただいている聴力障害者協会の助言もいただきながら、一定のスキルを身につけた方のレベルアップを目的とした、中級向けの講習会等も企画し、育成につなげていきたい。

イ 音訳講習会

視覚障害者市民に対して、視覚情報を読みとり音声にして伝えることができるボランティアの育成を目的に、「ささゆり声の会」の全面的な協力のもと、今年度は中級音訳講習会を開催した。10名の受講者に対して延べ13回の講習会を実施し、80.0%の出席率であった。受講者の内8名は昨年度実施した初級音訳講習会の修了者で、個々にスキルアップを図ってこられた方たちを対象とした講習会であったため、終了後は、「ささゆり声の会」の一員として役割を担っていかれることとなるが、更に実践を積み重ね、活躍されることを期待したい。

市民交流事業

障害者市民と健常者市民の交流の拠点として、ささゆり園の利用促進を図り、ノーマライゼーションの推進に寄与することを目的に、今年度は、近隣住民、地域の小中学生、ささゆり園を活動拠点とするボランティア団体、障害者関係団体に参加を呼びかけ、身体障害者デイサービスの利用者と共に「餅つき会」を実施した。約70名の参加者があり、所期の目的は達成できたものと思われる。特に近隣の小中学生やその保護者の方が10名以上参加していただけたことは収穫であった。

障害者団体支援事業（施設の供与、備品等の貸し出し）

今年度も障害者団体やボランティア団体及び近隣の市民団体の活動拠点として、フリールームや会議室の無料開放、各団体専用のロッカーやレターケースの割り当てを行い、施設を有効に活用していただいた。利用件数は1,777件で対前年度比115.8%、延べ利用人数は22,396人で対前年度比129.3%と増加しており、利用者の視点に立った柔軟な運営に努めてきたことが、利用率の向上につながったと受け止めたい。

終わりに

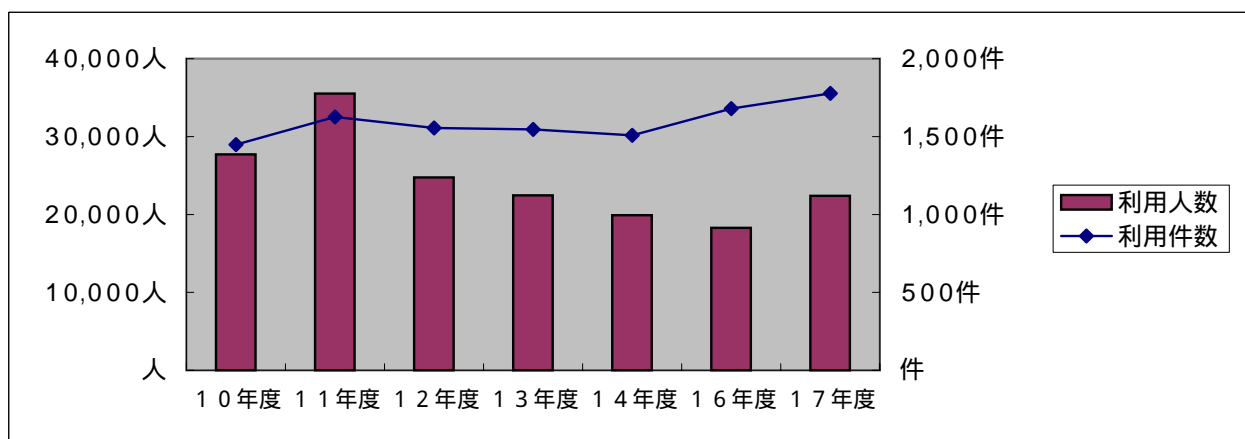
指定管理者として2年目を終え、いよいよ次年度は折り返しの年を迎える。障害者福祉センターとしての機能の充実を図ると共に、主体である利用者の視点に立ち、障害者市民及び関係団体、また地域住民にとって、より活用しやすい活動拠点に成り得ることを追求し、市民の財産として認知され、喜んでいただける管理・運営に努めたい。

ささゆり園利用状況

1. 開館日数 322 日
2. 利用件数 1777 件
3. 利用者数 22,396 人
4. 1日あたり利用件数 5.5 件
5. 1日あたり利用者数 69.6 人
6. 1件あたり利用者数 12.6 人
7. 事業別利用状況

事業	内訳	件数(件)	人数(人)	備考
児童デイサービス 推進事業	放課後教室	93	797	人数は利用者のみ (講師等は含まず)
障害者社会参加 促進事業	茶道教室	20	60	
	華道教室	21	98	
	小計	41	158	
ボランティア 育成事業	初級手話講習会	20	322	
	中級音訳講習会	13	104	
	小計	33	426	
貸館事業	障害者団体	583	11,549	
	ボランティア	463	4,027	
	スポーツ&レクリエーション	239	2,743	
	外郭・行政関係	48	1,273	
	自治会その他	60	855	
	IT室	215	387	
	貸館事業 計	1,608	20,834	
	合計	1,775	22,215	

8. 平成10年度～17年度 利用人数および利用件数の推移



	10年度	11年度	12年度	13年度	16年度	17年度
開館日数	305日	308日	308日	322日	322日	322日
利用人数	27,711人	35,516人	24,758人	18,282人	18,282人	22,396人
利用件数	1,448件	1,626件	1,555件	1,679件	1,679件	1,777件
1日あたり利用人数	90.9人	115.3人	80.4人	56.8人	56.8人	69.6人
1日あたり利用件数	4.7件	5.3件	5.0件	5.2件	5.2件	5.5件

・平成15年度は改装期間を含むため除外した。

身体障害者デイサービス提供実績

(1) サービス提供時間 (9時00分～15時30分)

単位：人

月	開所日数	延べ利用者数	サービス提供実績						1日あたりの利用者数
			6時間以上	4～6時間	4時間未満	給食サービス	送迎サービス (片道=1回)	入浴サービス	
4月	20日	244	230	6	8	206	465	75	12.2
5月	19日	218	207	2	9	191	413	69	11.5
6月	22日	248	225	17	6	215	469	80	11.3
7月	20日	248	225	17	6	197	447	75	12.4
8月	23日	267	229	28	10	231	494	85	11.6
9月	20日	249	232	10	7	20	40	8	12.5
10月	20日	237	225	5	7	203	451	71	11.9
11月	20日	242	225	8	9	191	468	71	12.1
12月	19日	249	225	13	11	173	437	70	13.1
1月	19日	249	225	13	11	194	425	68	13.1
2月	20日	249	225	13	11	206	495	73	12.5
3月	22日	249	225	13	11	230	517	87	11.3
合計	244日	2949	2698	145	106	2257	5121	832	145.3
平均	20.3日	245.8	224.8	12.1	8.8	188.1	426.8	69.3	12.1

平成16年度実績

合計	243日	2274	2104	115	55	1885	4331	634	112.2
平均	20.3日	189.5	175.3	9.6	4.6	157.1	360.9	52.8	9.4

(2) サービス提供時間 (16時00分～18時00分)

単位：人

月	開所日数	延べ利用者数	サービス提供実績						1日あたりの利用者数
			6時間以上	4～6時間	4時間未満	給食サービス	送迎サービス (片道=1回)	入浴サービス	
4月	20日	52			52		89	52	2.6
5月	19日	52			52		84	52	2.7
6月	22日	65			65		109	65	3.0
7月	20日	64			64		104	64	3.2
8月	23日	71			71		114	71	3.1
9月	20日	65			65		110	65	3.3
10月	20日	66			66		106	66	3.3
11月	20日	68			68		116	68	3.4
12月	19日	62			62		103	62	3.3
1月	19日	64			64		109	64	3.4
2月	20日	72			72		119	72	3.6
3月	22日	82			82		135	82	3.7
合計	244日	783	0	0	783	0	1298	783	38.5
平均	20.3日	65.3	0.0	0.0	65.3	0.0	108.2	65.3	3.2

平成16年度実績

合計	204日	380	0	0	380	0	622	0	18.7
平均	20.4日	38.0	0.0	0.0	38.0	0.0	62.2	0.0	1.9

主な活動内容

(1) 健康活動

- * バイタルチェック・エクササイズ
- * 作業療法士訪問指導・相談
- * 嘱託医訪問指導・相談
- * 車いす製作巡回相談
- * 健康診断（医療保険センター）
- * リラクゼーション・フットバス・エアマット・トランポリン・シーツブランコ・プラネタリウム
- * プール・農園・近隣散策
- * ダンス活動・かのんコンサート（あかつき園との共有プログラム）
- * ドックセラピー

(2) 創作活動

- * 組みひも・さをり織り・手芸・描画・手漉きはがき作り・アルバム作り
- * 季節を感じる創作（七夕飾り・クリスマス飾り付け・年賀状作り・凧作り）

(3) 文化活動

- * ボランティア講師指導による音楽プログラム
- * コンサート鑑賞・音楽鑑賞・演芸会鑑賞・歌劇鑑賞・映画鑑賞・作品展鑑賞・ビデオ鑑賞
- * 図書館・クッキング・点茶・生け花・カラオケ・ゲーム

(4) 社会活動

- * 地域清掃・リサイクル

(5) 所外活動

- * 社会見学（海遊館・昆陽池）
- * 個別活動（近隣施設探訪・公共交通機関利用外出・外食・買物・ドライブ）・知的デイサービスとの交流会

(6) 全体活動

- * 季節感を味わう行事（そうめん流し・バーベキュー・クリスマス・もちつき・凧揚げ・豆まき・ひなまつり）

その他特記事項

- (1) 介助員2名を採用し支援体制を整える。
- (2) 看護師1名を採用し、計2名体制を整える。
- (3) 新たに医療的ケアが必要な方が利用を開始され、対象者が2名となる。
- (4) 浴室の日常清掃をシルバー人材センターへ委託する。

地域生活支援事業

障害者ショートステイ事業（児童・知的・身障）

ア 概要報告

平成17年度の障害者ショートステイ事業は、利用総数1,772名で、対前年度比94.0%となり、若干の減少となった。利用者の内訳を見ると、知的障害者が58.2%、身体障害者が1.0%、児童が40.8%であった。障害区分別では区分1の方の利用が全体の68.7%、区分2が25.1%、区分3が6.2%と、障害の重い方の利用率が高いことが判る。利用種別で見ると、宿泊利用が全体の48.6%、日帰り利用が51.4%であった。日帰り利用が減少傾向にあるが、支援費制度の施行以降、居宅介護（ヘルパー）の利用と併用される方が増えてきたことが要因と思われる。

イ 特筆すべき事項

- A 利用者へのアンケート調査を行い、結果を踏まえて実行できることは改善を図り、サービスの向上に努めた。
- B サービス提供記録を改訂し、利用期間中の様子を伝える手段として活用した。

ウ 今後について

ショートステイは、その都度の申請に基づき利用していただくことが原則であるが、当該事業をより有効に活用していただくため、予約状況を見て当該事業から利用の斡旋・調整を行ってきた。次年度も数少ない社会資源を、より有効かつ効率的に利用してもらうために、公平性・平等性のバランスを図りながら、運営に努めていきたい。

エ 障害者ショートステイ利用状況総括表（稼働日数＝365日）

項 目	延べ利用人数	月平均利用者数
ショートステイ利用者 総数	1,772名	147.7名
内訳		
知的障害者（ライブラ）	1,004名	83.7名
身体障害者（ライブラ）	17名	1.4名
児童（ライブラ）	724名	60.3名
知的障害者（わんすてっぷ）	27名	2.25名
身体障害者（わんすてっぷ）	-	-
平成16年度	1,885名	157.1名
対前年度比率	94.0%	

注）端数処理は、小数点第二位以下を四捨五入

オ 宿泊利用者・日帰り利用者の比率

利用種別	利用人数	全体比率
宿泊利用者	861名	48.6%
日帰り利用者	911名	51.4%

注）端数処理は、小数点第二位以下を四捨五入

カ 1日平均利用者数

平成17年度		平成16年度	対前年度比率
4.9名		5.2名	94.2%
内 訳	宿泊利用	2.4名	100.0%
	日帰り利用	2.8名	89.3%

注）端数処理は、小数点第二位以下を四捨五入

知的障害者地域生活援助事業（グループホーム運営事業）

ア 概要報告

今年度は前年度より欠員が生じていた第6つながりの家に新たな入居者を迎え、男性グループホーム5ヶ所（各定員4名：計20名）、女性グループホーム4ヶ所（各定員4名：計16名）での運営となった。入居者の高齢化・医療的ケアへの対応等の積み残された課題も多々あるが、地域生活総合支援センターを核として世話人、入居者が通所されている施設、保護者等の連携を強化し、グループホームでのより快適・安全な生活支援に努めた。

また、今年度の大きな課題として入居者ご家族の高齢化による家族支援の必要性に直面し、その対応にも重点を置き、入居者及びご家族への総合的な生活支援を行った。

イ 特筆すべき事項

A 家族支援

入居者のご家族の高齢化にともない、家族支援の必要性が生じたため、箕面市社会福祉協議会（在宅ケアセンター）等との連携を図り、その対応を行った。

B 他法人が設立するグループホームへの助言

今年度、箕面市内に新設されるグループホームの開設準備に係る様々なアドバイス（支援体制の構築・必要備品、他）を行い、社会資源の拡充に努めた。

C 入居者の入居及び退去

男性1名 平成17年7月1日付けで入居

女性1名 平成18年2月28日付けで退去

ウ 今後について

障害者自立支援法の施行にともない平成18年10月からは新たな制度に対応した「グループホーム」「ケアホーム」の運営を実施しなければならず、その対応には様々な課題が山積されている。

重要課題として、

A 新制度下における支援体制の再構築

B グループホームにおける医療的ケアのあり方

C 保護者等の高齢化にともなう家族支援のあり方

D 権利擁護の課題（成年後見制度、地域福祉権利擁護事業等の活用）等がある。

法改正により運営は非常に厳しい状況になるが、入居者の方たちが安心して地域での生活が継続できるよう総合的な支援体制の構築、サービスの向上、経営の効率化に努めたい。

エ グループホーム入居者障害状況

平成18年3月31日現在

項目	療育手帳			身体障害者手帳			支援費障害程度区分	
	A	B 1	B 2	1級	2級	3級以上	区分1	区分2
女性(15名)	11名	3名	1名	3名	0名	3名	12名	3名
男性(20名)	18名	2名	0名	5名	2名	3名	17名	3名
全体(35名)	29名	6名	1名	8名	2名	5名	29名	6名

オ 利用日数(年間)

平成18年3月31日現在

項目	平均年齢	運営日数	平均利用日数	最低利用日数	最高利用日数
女性(16名)	33歳	365日	18.0日	6日	31日
男性(20名)	36歳	365日	18.1日	6日	31日
全体(36名)	35歳	365日	18.9日		

注1) 端数処理については、小数点以下第2位を四捨五入

カ 利用率(年間)

平成18年3月31日現在

項目	平均	最低	最高
女性(16名)	59.8%	19.0%	100.0%
男性(20名)	59.3%	19.0%	100.0%
全体(36名)	59.6%	19.0%	100.0%

注1) 最低利用率については、男女とも入居・退去によるものである

注2) 端数処理については、小数点以下第2位を四捨五入

箕面市在宅障害者自活訓練事業及び箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業

ア 概要報告

A 箕面市在宅障害者自活訓練事業

平成17年度は、昨年度に引き続き「重度障害者市民自立支援棟わんすてっぷ」において、箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業と実施場所を併用しつつ、定員の20名を対象に個別支援計画を策定し訓練を実施した（但し、男性1名が訓練計画策定後に利用待機を申し出られたため、実際には19名が利用された）。昨年同様、利用者の経験年数や訓練への慣れに応じてトワイライト（宿泊を伴わない夕方のトレーニング）及び1～3泊の訓練を行い、グループホームでの生活に近いかたちでの集中宿泊訓練には1名の方が参加された。ご家族の方に対しては、年度末に訓練実施状況報告書を面談の場でお渡しし訓練での様子を伝えると共に、次年度の訓練のあり方について話し合う機会を設けた。また、昨年度実施された第6つながりの家への新規入居者選定のための集中宿泊訓練を経て、1名の方が新しくグループホームの一員となった。

B 箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業

前述の自活訓練同様、昨年度に引き続き「重度障害者市民自立支援棟わんすてっぷ」において、箕面市在宅障害者自活訓練事業と実施場所を併用しつつ、定員の10名を対象に個別支援計画を策定し訓練を実施した（定員とは別に自薦ヘルパー利用での訓練をされた方が1名いた）。昨年同様、利用者の経験年数や訓練への慣れに応じてトワイライト（宿泊を伴わない夕方のトレーニング）及び1～3泊の訓練を行い、グループホームでの生活に近いかたちでの集中宿泊訓練には3名の方が参加された。また、3月には他法人が新設されたグループホームに、男性の登録者4名が入居された。

イ 特筆すべき事項（両事業共通）

A ヘルパーの質的向上を目指して

スキルアップ研修として、利用者への支援における基本姿勢や障害特性（脳性マヒ、自閉症、てんかんなど）に関する基礎講座と身体介護・食事介護などの様々な場面での安全・快適な介護方法の実技講座や料理講座などの実践講座をそれぞれ開催した。参加者からも今後も幅広い研修機会を望む声も聞かれ、今後も継続し計画・実践していきたい。

B 支援体制の再構築

支援体制については、コーディネーター担当1名と登録ヘルパー2名で実施した。しかし同性のコーディネーターが不可欠な場面も多々あり、安心して安全な支援を提供するためにも男女のコーディネーターが必要と考えられる。また、登録ヘルパーの数も依然として少ない状況が続いており、一定数のヘルパーの確保策の構築が求められる。

ウ 今後について（両事業共通）

私たちの理念は、障害のある方が「このまちで自分らしく暮らす」ことを目指すものであり、それには「人」による支援が不可欠であり、その支援者が多いほどその方の暮らしが安定する。

その意味において、この自活訓練はヘルパー資格等は必要ではなく、より多くの方（市民）が障害者市民と関るヘルパーとして勤務することができ、私たちの理念を伝え共有できる機会ともなっている。それは地域への啓発と支援者の拡大

を現場でダイレクトに行うことであり、あかつき福社会の他の事業には見られない自活・生活訓練だけの特徴であると言える。

地域と障害者福祉の世界をより身近なものにし、ノーマライゼーション社会の実現の一助となるよう、両事業の重要性を再認識しさらに発展させて行きたい。

***箕面市在宅障害者自活訓練事業 実施状況**

項 目		平成 17 年度	平成 16 年度	増 減	対前年度比
登録者数		36人	37人	1人	97.3%
参加者数(実数)		19人	19人	0人	100.0%
稼働 日数	宿泊	117日	129日	12日	90.7%
	トワイライト	29日	0日	29日	皆増
延べ 実施人数	宿泊	184人	243人	59人	75.7%
	トワイライト	30人	0人	30人	皆増

***箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業 実施状況**

項 目		平成 17 年度	平成 16 年度	増 減	対前年度比
登録者数		17人	18人	1人	94.4%
参加者数(実数)		11人	11人	0人	100.0%
稼働 日数	宿泊	105日	90日	15日	116.7%
	トワイライト	0日	8日	8日	皆減
延べ 実施人数	宿泊	131人	122人	9人	107.4%
	トワイライト	0人	8人	8人	皆減

障害児（者）地域療育等支援事業（児童・知的）

ア 概要報告

本事業は知的障害者及び障害児とその家族が、住み慣れた地域の中で、安心して暮らし続けることができるために、身近に相談できる相談窓口として、当事者及び家族が抱える課題に対して、何らかの解決策や、支援の方向性を見出して行くことを目的としている。今年度も法人事業や関係諸機関との連携を図りながら、相談・支援を実施してきた。

イ 特筆すべき事項

- A 在宅で引きこもりの方の定期訪問
- B ヘルパーやショートステイ等サービスの利用に関する相談及び利用に向けたプログラムの作成
- C サービスの利用につないだケースの、その後の利用状況・生活状況の把握
- D 不登校児童を抱える家族への相談・支援
- E 日中活動の場創設に関する相談・助言

ウ 今後について

相談の経過としては、単発や短期間の相談で終結を向かえるケースが多いが、中には解決や改善の糸口が見出せず、継続的に関わりを続けなければならないケースもある。また、課題を抱えていても家族で抱え込んでしまうケースや、現状に甘んじて変化を望まないケースもある。しかし、そういうケースに対しても、当該事業の業務として積極的に出向いて行き、必要に応じて介入していくことを受け入れてもらえるような信頼関係を築いていくことを重視した取り組みを行ってきた。今後も課題を抱えるケースの発見に努めると共に、機動性を重視し、実効性のある相談・支援活動が展開できるよう努めたい。

* 障害児（者）地域療育等支援事業 登録者数

項 目	平成17年度	平成16年度	増減	対前年度比
合 計	105名	105名	0	100.0%

* 障害児（者）地域療育等支援事業実施件数

項 目	平成17年度	平成16年度	増減	対前年度比
外来療育等指導事業	1件	1件	0件	100.0%
訪問療育等指導事業	32件	40件	8件	80.0%
施設一般指導事業	12件	32件	20件	37.5%
地域生活支援事業	322件	262件	60件	122.9%
合 計	367件	335件	32件	109.6%

障害者居宅介護等事業（知的・身障）

ア 概要報告

事業開始当時（平成15年度）は、当福祉会が運営するグループホーム（9ヶ所）入居者への派遣を中心に事業を行ってきたが、今年度よりグループホーム入居者以外への派遣も行いサービスの幅を広げた。

主な派遣先となっているグループホーム入居者への身体介護の派遣時間数は、総派遣時間の約65%を占めている。総派遣時間数は、対前年度比率で約130%となっているが、収入については対前年度比約113%（約2,099万円）にとどまった。派遣種類の収入状況は、身体介護：約1,813万円、移動介護(身有)：約165万円、移動介護：約257万円となっており、身体介護の収入が総収入の約80%を占めている。

本事業については、障害者自立支援法が施行されることにより、その対応が急務であるが、先行きの見えない状況となっている。

イ 特筆すべき事項

A 地域生活総合支援センター開設

今年度より正式に地域生活総合支援センターが開設され、利用者ニーズに即した福祉サービスを効率的に行うよう関係する施設・機関等との連携の強化を図った。

B ヘルパーの資質向上に向けた取り組み

居宅介護従事者資格証明書保有者（いわゆる見なし資格保有者）に対し、大阪府が主催する移動介護従事者研修への参加を積極的に進める等、ヘルパーの資質向上に努めた。

C 福祉専門学校への講師派遣

地元の福祉専門学校が行う移動従事者研修会へ講師派遣を行い、次世代のヘルパーの養成に努めた。

ウ 今後について

障害者自立支援法の施行に伴い、平成18年10月から「ケアホームにヘルパーを派遣する場合の課題（収入減）」「外出介護が市町村が行う地域生活支援事業に位置づけられる」という大きな課題がある。当福祉会としては、利用される方にとって使いやすい制度となるよう、必要に応じて行政への提言を行いたい。

また、人材確保の問題も大きい。移動介護は土日祝日に集中するので、その人材確保が困難であり、現状では当福祉会の施設職員も動員し、ニーズに対応している。

今後、重度障害者が地域で生活する上で本事業は必要不可欠である。そのためには、居宅介護・重度訪問介護事業での顧客開拓を行い安定的な収入を確保しながら、顧客ニーズに対応できるよう人材の確保・育成を行いたい。また、重度障害者の社会生活を支援するための社会資源としての役割を果たせるよう関係施設・機関等との連携強化に今後とも力を注ぎ、その役割を果たしたい。

エ 居宅介護等事業派遣状況総括表

	利用契約者数	延べ派遣件数	延べ派遣時間数
平成16年度	47人	3,634件	4,336.0時間
平成17年度	59人	4,261件	5,631.5時間

才 居宅介護等事業派遣状況内訳表

		家事援助	身体介護	移動介護	移動介護(身)
平成 16 年度	早夜間朝	0時間	1,700.0時間	83.0時間	19.5時間
	日 中	0時間	1,374.0時間	695.0時間	441.0時間
	深 夜	0時間	23.5時間	0.0時間	0.0時間
平成 17 年度	早朝夜間	0時間	2,209.0時間	111.0時間	23.5時間
	日 中	0時間	1,657.5時間	833.0時間	714.5時間
	深 夜	0時間	83.0時間	0時間	0時間

職員研修実施状況

今年度の職員研修は、福社会内研修も含め延べ実施件数73件（対前年度比114.1%）、延べ参加人数227名（対前年度比135.9%）と、前年度比微増になっている。これは福社会内部で職員研修を行った結果であり、外部研修については減少している。今年度は、障害者自立支援法に係わる情報収集を目的に研修に参加しており、そこでの情報をもとに調査研究を行った。

次年度については、障害者自立支援法への制度移行に向け積極的に研修に参加し、調査研究を行うとともに、資格試験受験のための研修参加の機会を増やし、職員個人の能力アップにつなげ、その成果が利用者サービスの向上につながるよう努めたい。

職場研修（2回）

開催日：平成17年6月23日（木）・7月9日（土）

開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり3階ささゆりホール

講師：医療法人 田中メンタルクリニック 院長 田中千足氏

内容：「職場における心の健康管理」～自分と同僚支援～

職員参加者：76名

開催日：平成17年11月11日（金）

開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり3階ささゆりホール

講師：箕面市障害者雇用支援センター 東 良太郎氏

内容：「箕面市障害者支援センターの実践から」～働くために必要なこと～

職員参加者：33名

つるかめざん（2回）

昨年度より、地域の社会資源の理解を深め連携強化を図るため、箕面市障害福祉課、商工観光課、箕面市障害者事業団、箕面市社会福祉協議会と協力して勉強会組織「つるかめざん」を立ち上げたが、シンポジウムを最終回として解散された。

ア 第4回つるかめざん

開催日：平成17年7月7日（木）

開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり3階ささゆりホール

発表者：あかつき福社会 三阪義英

内容：「あかつき福社会の現状について」

職員参加者：24名

イ 第5回つるかめざん

開催日：平成17年9月30日（金）

開催場所：箕面市立障害者福祉センターささゆり園 会議室

内容：「シンポジウム」

コーディネーター	箕面市障害福祉課	森 和則氏
パネリスト	箕面市社会福祉協議会	高垣郁子氏
	箕面市障害者事業団	東 良太郎氏
	あかつき福社会	古川伸吾

職員参加者数：10名

*** 部局別職員研修参加状況**

項 目	平成17年度	平成16年度	増減	対前年度比
法人本部	17名(12件)	16名(13件)	1名	106.3%
箕面市立あかつき園	87名(24件)	39名(9件)	48名	223.1%
箕面市立ワークセンターささゆり	40名(10件)	64名(21件)	24名	62.5%
箕面市立障害者福祉センターささゆり園	35名(14件)	16名(7件)	19名	218.8%
地域生活総合支援センター	48名(13件)	32名(14件)	16名	150.0%
合 計	227名(73件)	167名(64件)	60名	135.9%

*** 主な参加研修**

法人本部

公正採用選考人権啓発推進員・新任基礎研修、社会福祉法人経営セミナー、過重労働・メンタルヘルス対策セミナー、「施設職員の心のケアを考える」研修会、「人事・管理」担当者研修会、財務管理担当者研修会他

箕面市立あかつき園

サービスマナー・セミナー、てんかん基礎講座、ボランティアコーディネーター養成研修、社会福祉士実習担当者研修会、社会福祉施設職員研修障害児者施設課程基礎コース、大阪知的障害者協会通所授産分科会、障害者保健福祉サービスコーディネーション研修会、感染症予防対策講習会、大阪府障害者社会促進センター研修会、全国通所更正施設等職員研修会、全国知的障害者授産施設運営研究協議会他

箕面市立ワークセンターささゆり

サービスマナー・セミナー、てんかん基礎講座、ボランティアコーディネーター養成研修、脳性麻痺児療育関係職種講習会、ATACカンファレンス、移動介護従事者研修、他

箕面市立障害者福祉センターささゆり園

全国知的障害者授産施設運営研究協議会、障害者自立支援法臨時研修会、移動介護従事者研修、てんかん基礎講座、重症心身障害者介護人養成講座（初級・中級コース）他
地域生活総合支援センター

てんかん基礎講座、障害児（者）地域療育等支援事業近畿ブロック研修会、信州発地域で暮らそうフォーラム、グループホーム・ネットワーク京都会議、移動介護従事者研修、障害者ケアマネジメント従事者研修他

視察・実習等受け入れ状況

視察・実習等受け入れ状況

今年度は、延べ54件、482名の視察・実習生等を受け入れた。前年度に比較して減少しているのは、箕面市障害者福祉センターささゆり園の運営が2年目を迎え見学者が減少したこと、ワークセンターでの実習受入の減少が考えられる。次年度以降も、法人責務として視察者・実習生を積極的に受け入れ社会貢献及び地域啓発に務めたい。

* 部局別視察・実習生等受け入れ状況

項目	平成17年度	平成16年度	増減	対前年度比
箕面市立あかつき園	313名(28件)	319名(30件)	6名	98.1%
箕面市立ワークセンターささゆり	97名(15件)	126名(27件)	29名	77.0%
箕面市立障害者福祉センターささゆり園	60名(10件)	93名(5件)	33名	64.5%
地域生活総合支援センター	12名(1件)	42名(11件)	30名	28.6%
合計	482名(54件)	580名(73件)	98名	83.1%

注) あかつき園・ワークで重複している視察・見学は、あかつき園で計上

* 主な視察・実習等受け入れ先

ア 視察・見学

大阪府立豊中養護学校、大阪府立箕面養護学校、特定非営利活動法人大牟田市障害者協会、豊能町手をつなぐ親の会、関西福祉科学大学福祉実習相談室、箕面市民生委員児童委員協議会、箕面市進路保障協議会、聖母被昇天学院中学校、箕面市立西南小学校、箕面市立中小学校、箕面市立止々呂美小学校、箕面市立第五中学校、社会福祉法人宝塚さざんか福祉会、ガラシア病院(看護師)他

イ 実習

大阪府立箕面養護学校・大阪府立豊中養護学校、社会福祉法人大阪障害者団体連合会、箕面市職員、関西福祉科学大学、介護等体験実習(大阪外国語大学・関西大学)、藍野医療福祉専門学校、インターシップ他

福祉会主催による説明会開催状況

障害者自立支援法説明会

実施目的

知的・身障のデイサービス利用者家族については、障害者自立支援法に関する情報が不足していることが、予測されるため説明会を行った。

実施内容及び実施日時等

実施日時：平成18(2006)年1月12(木)13:00～15:20

実施場所：箕面市立障害者福祉センター会議室

説明者：あかつき福祉会 あかつき園園長補佐 亀谷雅彦
ささゆり園園長 古川伸吾

実施内容：障害者自立支援法の概要
利用者負担金について
施設・事業の再編について
障害程度区分判定について

参加者：家族9名

利用者説明会

実施目的

障害者自立支援法の施行に伴い利用者負担金等が変更になることから、説明会を行った。

実施内容及び実施日時等

実施日時：平成18(2006)年3月27(月)10:00～12:00

実施場所：箕面市立ワークセンター3階ささゆりホール

説明者：あかつき福祉会 あかつき園園長補佐 亀谷雅彦

ささゆり園園長 古川伸吾

実施内容：障害者自立支援法に伴う利用者負担金の取扱いについて

送迎・給食費等について

施設・事業の再編について

参加者：家族48名

講師派遣等(10件)

講師派遣に関しては、福祉団体や養護学校などの地域生活支援に関する講師依頼が多かった。

*講師派遣状況

日時	件名	依頼団体等	講師
平成17年5月26日	グループホームについての懇談会	北摂福祉会	地域生活総合支援センター職員2名
平成17年7月1日	各市別進路個別相談会	大阪府立豊中養護学校	ささゆり園長
平成17年8月6日	夏期療育キャンプボランティア研修会	箕面市肢体不自由児者父母の会	あかつき園園長補佐
平成17年11月17日～18日	第21回全国通所更生施設等職員研修会	日本知的障害者福祉協会	あかつき園園長補佐
平成17年11月17日	懇談会	箕面市肢体不自由児者父母の会	ささゆり園園長
平成17年12月15日	障害者自立支援法に伴う施設体系の再編	箕面市肢体不自由児者父母の会	ささゆり園園長 あかつき園園長補佐
平成17年12月21日	障害者自立支援法に関する勉強会	箕面手をつなぐ親の会	ささゆり園園長 あかつき園園長補佐
平成18年1月23日	個別福祉懇談会	大阪府立箕面養護学校	ささゆり園長
平成18年2月1日	地域別情報交換会	大阪府立箕面養護学校	ささゆり園長
平成18年3月13日	箕面学園ガイドヘルパー養成講座	箕面学園福祉保育専門学校	あかつき園園長補佐

ボランティア受入状況

施設名	参加人数	活動内容等
あかつき園(わんすてっぷ含む)	280名	日中活動(外出、手漉きはがき作成、園芸他) 作業ボランティア(製袋作業他)、創作活動等
ワークセンター-ささゆり	145名	プール活動、作業療法、音楽療法、創作活動、 音楽活動(コンサート)、行事活動(外出等)
障害者福祉センター-ささゆり園	15名	おんぷ(音楽活動)、日中活動
地域生活総合支援センター		
合計	440名	

社会福祉法人あかつき福祉会 役員名簿

・ 理事

平成18年3月31日現在

役職名	氏 名	選 出 団 体	役職名等	区 分
理事長	庄司 修三郎	箕面ロータリークラブ元会長		学識経験者
副理事長	印藤 政治	箕面市身体障害者福祉会	副会長	社会福祉団体
常務理事	稲治 昂	社会福祉法人あかつき福祉会	箕面市立あかつき園長	施設長
理 事	平野 クニ子	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	会長	学識経験者
理 事	中西 健雄	箕面市民生委員児童委員協議会	会長	学識経験者
理 事	近藤 俊一	元 社会福祉法人箕面市社会福祉協議会 常務理事		学識経験者
理 事	辻 三紀	箕面市肢体不自由児者父母の会	幹事	社会福祉団体
理 事	橋口 さよ子	箕面手をつなぐ親の会	会長	社会福祉団体
理 事	野津 禮子	社会福祉法人 暁光会 あかつき特別養護老人ホーム	施設長	社会福祉施設
理 事	寺内 勇	社会福祉法人 翠明社 特別養護老人ホーム 照葉の里	施設長	社会福祉施設
理 事	坂田 孝	箕面市健康福祉部	次長	行政関係

・ 監事

平成18年3月31日現在

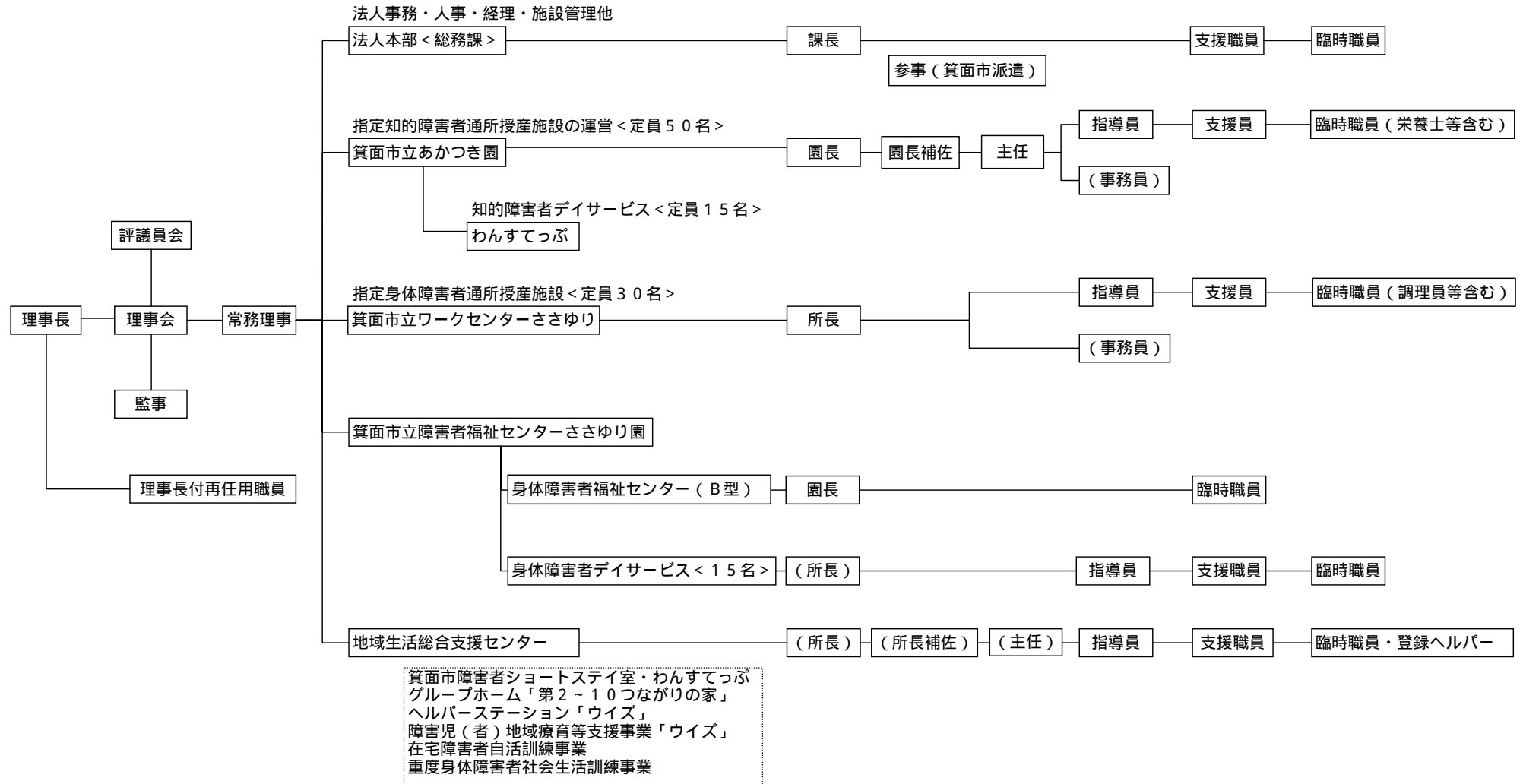
監 事	田中 輝夫	元 あかつき福祉会 評議員	(社福)箕面市社会福祉協議会 萱野小地区福祉会 副会長	学識経験者
監 事	能勢 芳樹	箕面市出納室	室長	行政関係

社会福祉法人あかつき福祉会 評議員名簿

平成18年3月31日現在

氏名	出身団体	役職名等	
奥 政則	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	常務理事	福祉団体
森 幸男	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	副会長	福祉団体
石田 彦嗣	箕面市民生委員児童委員協議会	副会長	福祉団体
吉田 照夫	財団法人箕面市障害者事業団	常務理事	福祉団体
濱口 忠	箕面市身体障害者福祉会	会長	福祉団体
名淵 須和子	箕面手をつなぐ親の会	副会長	福祉団体
井上 千都	箕面市肢体不自由児者父母の会	会長	福祉団体
植田 恵美子	社会福祉法人息吹	理事長	福祉団体
川端 健高	社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団	総務課長	福祉施設
小山 隆	同志社大学	教授	学識経験者
中井 満州男	箕面ロータリークラブ	(有)中満商事デューク書店 代表取締役	学識経験者
泉 道彦	元社会福祉法人あかつき福祉会	元あかつき園園長	学識経験者
西田 俊次	箕面商工会議所	常議員	学識経験者
立見 五十七	箕面商工会議所	常議員	学識経験者
瀧 洋二郎	浅岡・瀧法律会計事務所	弁護士	学識経験者
奥村 慶治	元 箕面市職員	保護司	学識経験者
澤田 榮三	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会 西南小地区福祉会	副会長	学識経験者
泉 英二	大阪府立箕面養護学校	教諭	行政関係
清水 多實子	大阪府池田保健所（地域保健課）	保健補佐	行政関係
大溝 憲久	大阪府池田子ども家庭センター（健全育成課）	課長	行政関係
辻 広志	箕面市人権文化部（人権推進課）	課長	行政関係
吉田 功	箕面市教育委員会教育推進部（人権教育課）	担当主査	行政関係
森 和則	箕面市健康福祉部（障害福祉課）	課長	行政関係

社会福祉法人あかつき福祉会 組織図



平成17(2005)年度社会福祉法人あかつき福祉会 職員内訳

*職員内訳詳細

平成18年3月31日現在

部 局 名	正規職員	支援職員	臨時職員	合 計
法人本部	3名	2名	1名	6名
箕面市立あかつき園 (わんすてっぷ)	8名	11名	13名	32名
箕面市立ワークセンターささゆり	3名	5名	12名	20名
箕面市立障害者福祉センターささゆり園	3名	3名	10名	16名
地域生活総合支援センター	2名	19名	1名	22名
合 計	19名	40名	37名	96名

注1) 正規職員数には、箕面市出向者2名、箕面市派遣職員1名及び理事長付再任用職員1名を含む

注2) 支援職員数には、障害者職員3名を含む

注3) 臨時職員数には、派遣会社職員、バス添乗等の短時間勤務職員を含む

注4) その他、登録ヘルパー 21名